

かがわ医療福祉総合特区 における医薬連携事業



地域活性化総合特区 構成メンバー

香川大学瀬戸内圏研究センター 特任教授 原 量宏

指定団体 香川県

構成メンバー

- | | |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 香川大学 |  株式会社STNet |
| 徳島文理大学 |  株式会社ミトラ |
| 香川県医師会 |  日本メディカル株式会社 |
| 香川県看護協会 |  株式会社バイクューブ |
| 香川県薬剤師会 |  NPO法人 EHCik 他 |

香川大学瀬戸内圏研究センター
特任教授 原 量宏

かがわ医療福祉総合特区における医薬連携事業

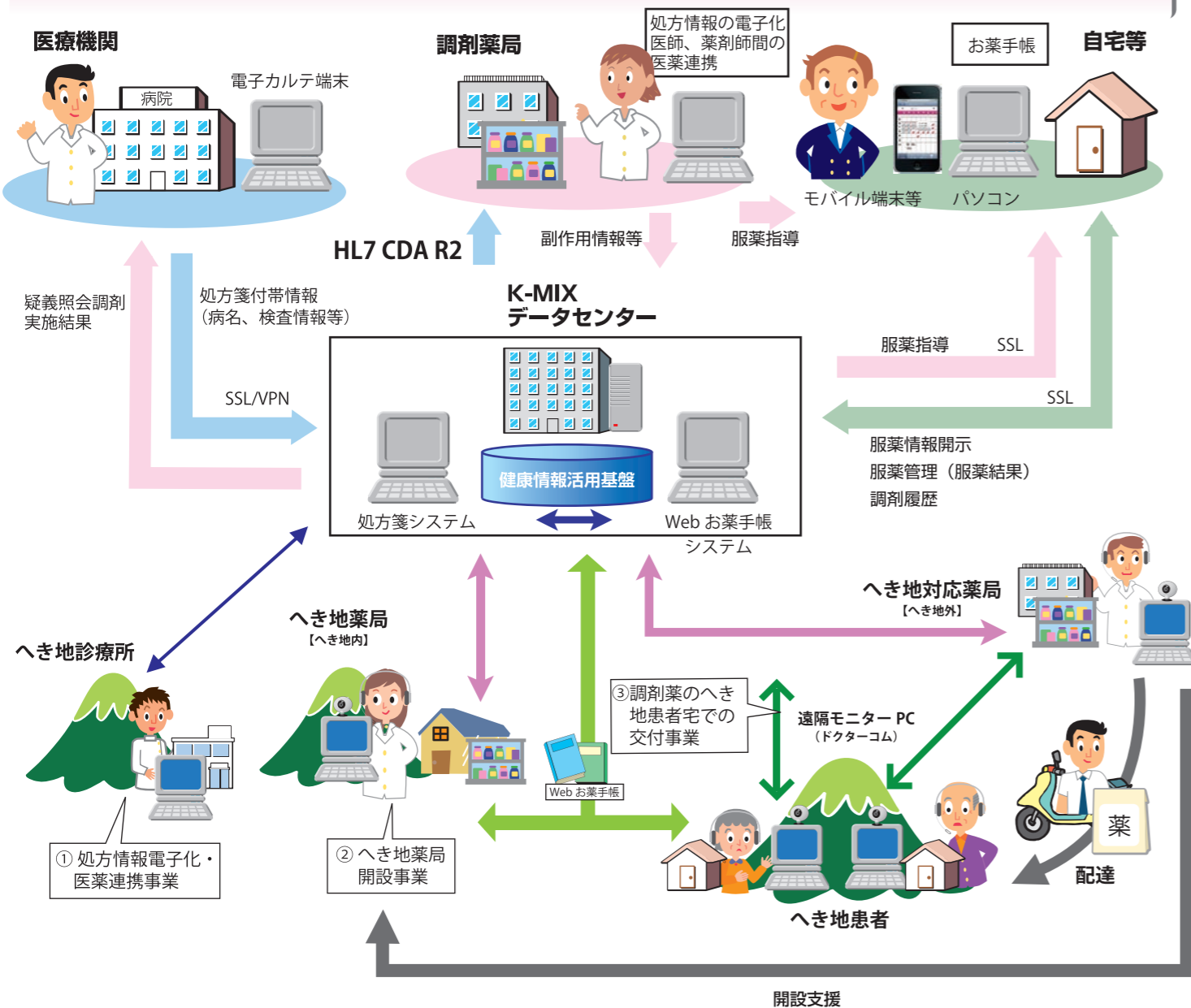
医薬連携プロジェクト概要

この度認定された香川県の医療福祉総合特区において、従来は規制により実施困難であった遠隔服薬指導など離島・僻地の住民に真に役立つ医薬連携プロジェクトを進める。

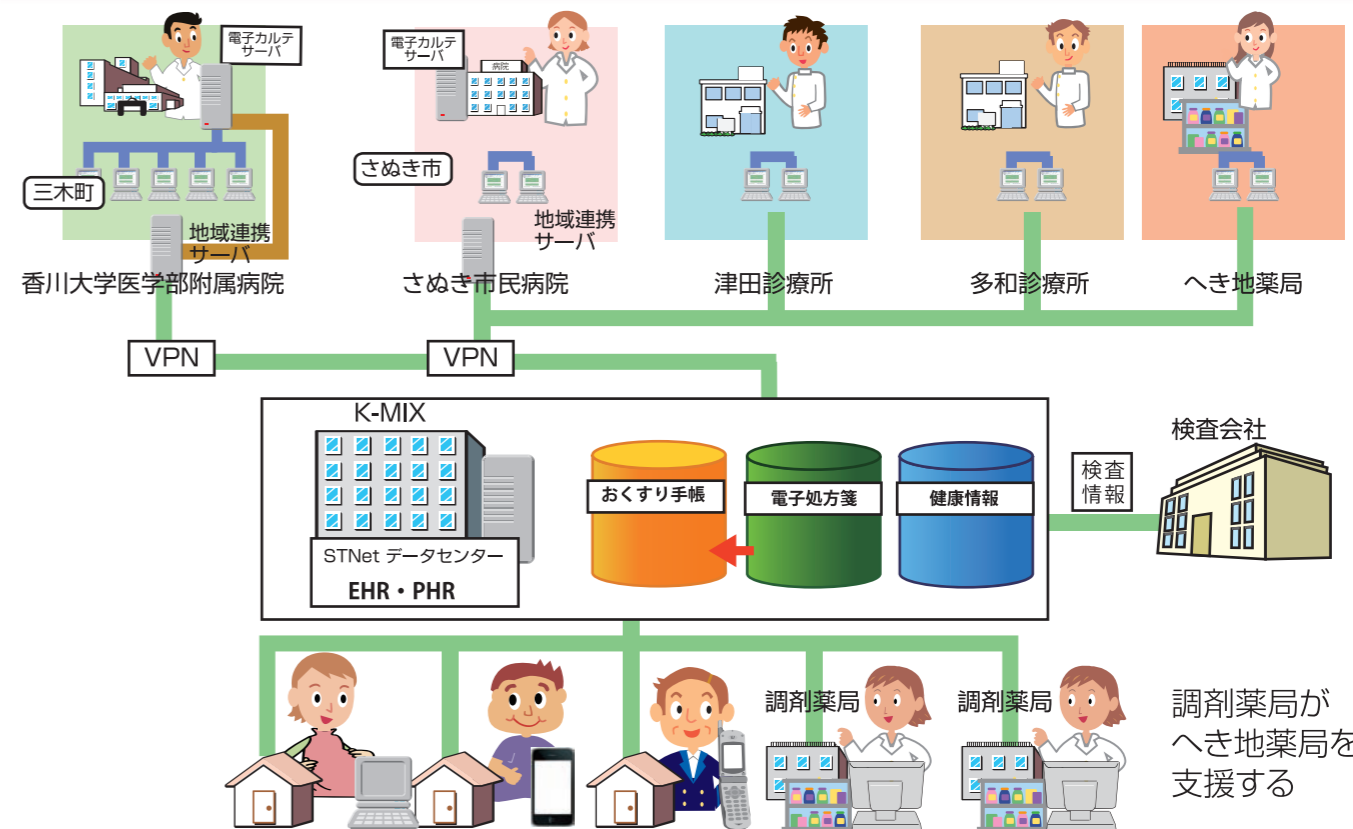
へき地の医療において、病院・診療所から交付される処方箋及び患者背景・検査情報を電子化し調剤薬局に提供するシステム(かがわ医薬連携情報共有システム)を活用し、患者、薬剤師間双方向の情報伝達の仕組みを構築・運用する。

具体的には、へき地薬局から調剤薬とともにモバイルPCを患者宅へ持参し、今回開発した電子版お薬手帳の情報を活用し、薬局の薬剤師が遠隔ではあるが対面に近い環境で服薬指導を行うとともに、患者自らが医療健康情報を管理することをサポートする。

かがわ医薬連携情報共有システムイメージ図



へき地における地域連携ネットワーク

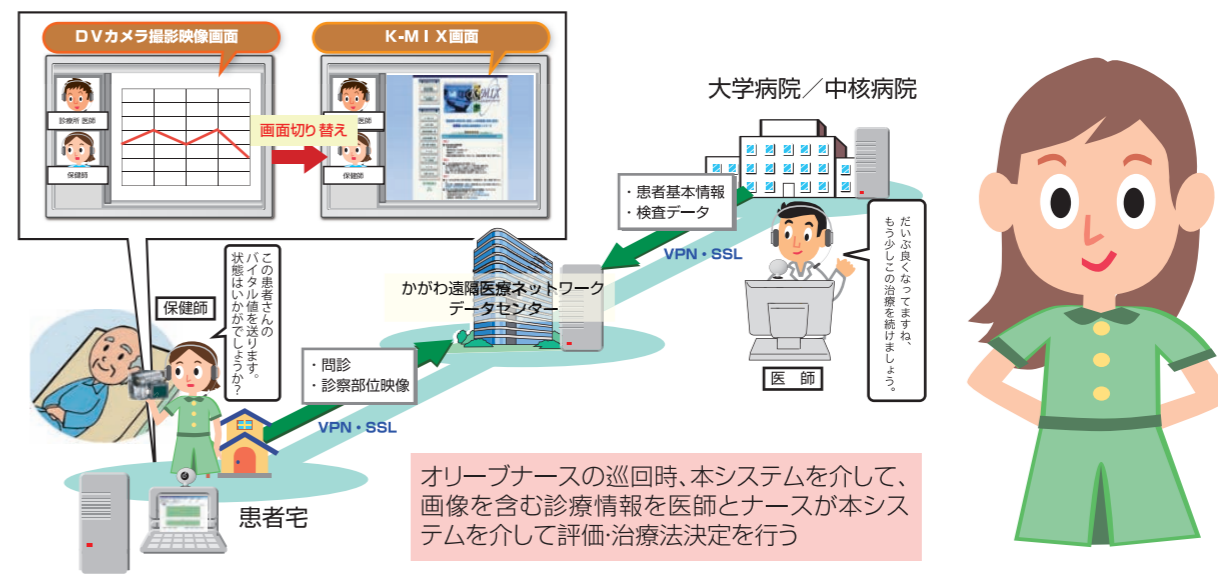


ドクターコムを利用したオーリーブナースによる訪問看護

ドクターコム・e-ラーニング等Webシステムで育成した訪問看護師(オーリーブナース)が、へき地や離島での訪問看護等の際、在住している患者に対してドクターコムを利用し、遠隔にいる医師の指導・確認の元で治療を行う。

在宅患者が増大する現代において、在宅診療における医師と看護師のチーム医療を確立するものであり、へき地や離島といった医療サービスの低下している地域において患者が家庭で暮らすための体制であり、患者や家族にとっても移動負担の軽減や専門医へのアクセスを容易にする等、へき地・離島医療体制を一步踏み出すための試みである。

今後、e-ラーニング等Webシステムによるオーリーブナースの育成、ドクターコムを利活用した在宅看護の実施に取り組む。



オーリーブナースの巡回時、本システムを介して、画像を含む診療情報を医師とナースが本システムを介して評価・治療法決定を行う